



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月13日

上場会社名 日本サード・パーティ株式会社
 コード番号 2488 URL <http://www.jtp.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部長
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 森 豊
 (氏名) 伊達 仁
 TEL 03-6408-2488

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	4,647	16.6	348	96.1	354	95.2	227	98.1
2019年3月期第3四半期	3,984	15.3	177	7.8	181	9.7	115	2.0

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 233百万円 (95.6%) 2019年3月期第3四半期 119百万円 (2.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	44.79	
2019年3月期第3四半期	22.61	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	3,328	1,951	58.6	383.72
2019年3月期	3,120	1,819	58.3	357.83

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 1,951百万円 2019年3月期 1,819百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		20.00	20.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,340	15.9	419	75.7	419	69.5	251	62.5	49.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) 韓国サード・パーティ株式会社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	6,015,600 株	2019年3月期	6,015,600 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	930,176 株	2019年3月期	930,176 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	5,085,424 株	2019年3月期3Q	5,085,449 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業の設備投資や雇用環境の改善等を背景に、全体として底堅く推移しました。一方、世界経済においては、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題の継続に加え、中東情勢の緊張の高まり等により、不確実性が増し、景気の先行きは、不透明な状況が続いております。

ITサービス市場においては、人手不足に対応するための自動化・省力化等、いわゆる働き方改革への案件が引き続き増加傾向であり、更に10月1日からの消費税増税に伴う案件増加（駆け込み需要）もあり、総じて企業のIT関連投資が活況でありました。

このような状況下で、当社グループは、2019年11月22日に「労働集約型ビジネスから、知識集約ビジネスへの転換をはかることで、早期に営業利益10億円を目指す」2021-2023第1次中期経営計画を発表いたしました。この第1次中期経営計画における注力分野は、「ライフサイエンス分野におけるIT化支援事業」、「最適なAI（人工知能）を活用したサービス提供」、「グローバルでの人材コンサルティング事業」になります。

当第3四半期連結累計期間は、前期までの投資による成果が現れて来たことに加えて、スポット案件が重なったこと等により、過去最高の売上高を達成することができました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,647,752千円（前年同期比16.6%増）、営業利益は348,134千円（同96.1%増）、経常利益は354,258千円（同95.2%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は227,814千円（同98.1%増）となりました。

セグメントごとの業績は、次の通りであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、当社の組織体制の変更に伴い、従来「教育ソリューション事業」に含めておりましたインド支店を「その他」に、従来「その他」に含めておりました医療コンサルティング部門を「ライフサイエンスサービス事業」に含めることといたしました。また従来「その他」に含めておりました営業部門を「ICTソリューション事業」、「その他」、「全社」に区分することといたしました。

第2四半期連結会計期間より、従来「その他」に含めておりましたAI・RPA（*1）関連サービスとデジタルマーケティングサービスについて、事業計画上の重要性が増したことから「デジタルイノベーション事業」として集約し、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後の区分により組替えた数値で比較しております。

①教育ソリューション事業

当事業は、海外メーカやサービスベンダが日本市場へ参入した際に、必要となるエンドユーザ向けの技術トレーニング事業を請け負うほか、当社独自のICTの最先端技術トレーニングの提供と、スキルの棚卸しから不足するスキルを補う教育までのサイクルを総合的にコンサルティングする人財コンサルティングサービスを提供しております。当第3四半期連結累計期間は、前期に実施したオフィスエリアの拡張による受託業務拡大とWeb試験配信プラットフォームの利用拡大等により、売上高、営業利益とも増加しました。以上の結果、教育ソリューション事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は583,578千円（前年同期比11.7%増）、セグメント利益は189,183千円（同35.9%増）となりました。

②ICTソリューション事業

当事業は、ICTシステムの設計・構築・運用・保守サービスと製造支援サービスを提供しております。当第3四半期連結累計期間は、販売会社及びユーザ企業からの新規運用案件獲得や大型スポット案件の受注等により、売上高は2,498,398千円（前年同期比15.1%増）、セグメント利益は475,362千円（同30.0%増）となりました。

③西日本ソリューション事業

当事業は、西日本地域におけるICTシステムの運用・保守サービスとライフサイエンスサービスを提供しております。国内企業向けのICTシステムの運用・保守サービスが引き続き好調であり、業務受託量が増加した結果、西日本ソリューション事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は590,979千円（前年同期比17.6%増）、セグメント利益は110,479千円（同25.8%増）となりました。

④ライフサイエンスサービス事業

当事業は、ICTが応用的に使われている医療機器、化学分析装置などの据付・点検・校正・修理等の保守サービスを提供しております。新たに化学分析装置メーカーからの保守業務とITを活用したラボラトリー情報管理システム(LIMS) (*2)の導入支援業務等を受託いたしました。以上の結果、ライフサイエンスサービス事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は666,322千円(前年同期比18.7%増)となり、セグメント利益は70,374千円(同16.2%増)となりました。

⑤デジタルイノベーション事業

当事業は、デジタルトランスフォーメーション(*3)時代において中核事業となるAI・RPA(*2)関連サービスとデジタルマーケティングサービスを提供しております。自社サービスである「Third AI(サードアイ)」がソフトバンク社より評価され、「AIエコシステムプログラム」において、「ベスト・テクノロジー・パートナー・オブ・ザ・イヤー」を昨年に引き続き2年連続で受賞いたしました。その結果、大型案件の受注が増加いたしました。また2019年7月18日には、新たにAIソリューション「Third AI マーケティングソリューション」および、そのサービスラインアップとしてマーケティングサービス「レコメンドアイ」の販売を開始いたしました。一方でAI・RPA関連サービスの受注増・ビジネス拡大に対応するため、サービス強化のための先行投資を継続しました。以上の結果、デジタルイノベーション事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は308,392千円(前年同期比35.8%増)、セグメント損失は53,575千円(前年同期は68,672千円のセグメント損失)となりました。

⑥その他

当事業は①～⑤に属さない、その他の事業となり、インド支店、海外プロジェクト案件が含まれます。その他の当第3四半期連結累計期間の売上高は80千円(前年同期は一千円)、セグメント損失は25,292千円(前年同期は20,311千円のセグメント損失)となりました。

- *1 RPA (Robotic Process Automation) : パソコン上で人間が行ってきた、ルーチンワークをソフトウェアによって代行します。ホワイトカラー業務の効率化・自動化の取組みで、人間の補完として業務を遂行できることから、仮想的労働者(Digital Labor)とも言われています。
- *2 LIMS (Laboratory Information Management System) : 製薬会社等の研究所や工場全体の情報及びワークフローを管理するシステム。
- *3 デジタルトランスフォーメーション : 「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念のこと。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比し208,477千円増加し3,328,717千円となりました。

流動資産につきましては、前連結会計年度末と比し252,816千円増加し2,779,475千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少に対し、受取手形及び売掛金、仕掛品の増加によるものであります。

固定資産につきましては、前連結会計年度末と比し44,339千円減少し549,242千円となりました。これは主に、繰延税金資産の減少によるものであります。

負債合計につきましては、前連結会計年度末と比し76,813千円増加し1,377,309千円となりました。

流動負債につきましては、前連結会計年度末と比し53,099千円増加し825,383千円となりました。これは主に、賞与引当金の減少に対し、前受金の増加によるものであります。

固定負債につきましては、前連結会計年度末と比し23,714千円増加し551,926千円となりました。これは退職給付に係る負債の増加によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比し131,663千円増加し1,951,408千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に対し、剰余金の配当によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績見通しにつきましては、2019年11月13日に公表いたしました業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表しました「2020年通期連結及び個別業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,401,550	1,301,461
受取手形及び売掛金	930,212	1,137,610
商品	25,331	52,113
仕掛品	55,249	185,851
原材料及び貯蔵品	11,522	13,902
その他	111,460	97,052
貸倒引当金	△8,666	△8,517
流動資産合計	2,526,658	2,779,475
固定資産		
有形固定資産	148,765	145,570
無形固定資産	14,998	14,019
投資その他の資産		
その他	432,672	389,652
貸倒引当金	△2,855	—
投資その他の資産合計	429,817	389,652
固定資産合計	593,581	549,242
資産合計	3,120,240	3,328,717
負債の部		
流動負債		
買掛金	159,330	177,483
未払法人税等	79,702	60,067
賞与引当金	181,445	84,517
役員賞与引当金	—	4,631
その他	351,805	498,684
流動負債合計	772,284	825,383
固定負債		
退職給付に係る負債	527,461	551,176
その他	750	750
固定負債合計	528,211	551,926
負債合計	1,300,496	1,377,309
純資産の部		
株主資本		
資本金	795,475	795,475
資本剰余金	647,175	647,175
利益剰余金	888,262	1,014,368
自己株式	△478,747	△478,747
株主資本合計	1,852,164	1,978,270
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△6
為替換算調整勘定	△6,948	△5,082
退職給付に係る調整累計額	△25,471	△21,772
その他の包括利益累計額合計	△32,420	△26,862
純資産合計	1,819,744	1,951,408
負債純資産合計	3,120,240	3,328,717

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	3,984,809	4,647,752
売上原価	3,211,244	3,721,386
売上総利益	773,564	926,366
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	△4,760	△149
給料及び賞与	189,911	163,095
賞与引当金繰入額	14,999	7,907
役員賞与引当金繰入額	—	4,631
退職給付費用	5,374	5,319
支払手数料	123,011	120,563
その他	267,504	276,864
販売費及び一般管理費合計	596,041	578,232
営業利益	177,523	348,134
営業外収益		
受取利息	31	31
受取出向料	2,340	6,688
受取賃貸料	—	1,246
為替差益	1,373	—
その他	250	790
営業外収益合計	3,996	8,755
営業外費用		
支払利息	38	14
為替差損	—	2,617
営業外費用合計	38	2,631
経常利益	181,481	354,258
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	2,468
特別利益合計	—	2,468
特別損失		
関係会社清算損	—	2,689
固定資産除却損	—	6,417
特別損失合計	—	9,106
税金等調整前四半期純利益	181,481	347,620
法人税、住民税及び事業税	22,795	88,869
法人税等調整額	43,659	30,937
法人税等合計	66,454	119,806
四半期純利益	115,026	227,814
親会社株主に帰属する四半期純利益	115,026	227,814

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	115,026	227,814
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	67	△6
為替換算調整勘定	△285	1,865
退職給付に係る調整額	4,510	3,699
その他の包括利益合計	4,293	5,558
四半期包括利益	119,319	233,372
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	119,319	233,372
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。